第３回次期県立高校改革推進プラン策定懇談会について

令和３年１１月１１日

教　育　政　策　課

Ⅰ　実 施 日　令和３年１０月１９日（火）

Ⅱ　会　　場　ホテルポートプラザちば　２階ロイヤル

Ⅲ　出席委員　１２名／１４名

Ⅳ　内　　容

１　報告

・第３回策定懇談会の概要

・地域協議会について

・次期県立高校改革推進プラン策定のためのアンケート調査について

２　議 事

（１）次期県立高校改革推進プラン素案（説明）

○　計画の基本的な考え方

○　魅力ある県立高校づくりの推進

○　県立高校の適正規模・適正配置

（２）意見交換

３　議事録

座　長　まず初めに、報告（１）について、議事録「第２回次期県立高校改革推進プラン策定懇談会について（案）」について、既に各委員に御確認いただいたものである。了解いただければ、公開したいと思うが、いかがか。

（「異議なし」の声あり）

座　長　第２回策定懇談会の議事録は承認していただいた。

続いて、報告（２）について、資料１「地域協議会実施概要」、資料２「次期県立高校改革推進プラン策定のためのアンケート調査」について、事務局から説明をお願いする。

〇資料説明

地域協議会について

次期県立高校改革推進プラン策定のためのアンケート調査について

事務局説明

座　長　ここで質問を受けたいところだが、後の協議に反映させていただく形で発言をいただきたい。

議事に移る。まず初めに、資料３及び資料４「次期県立高校改革推進プラン（素案)」について、事務局から説明をお願いする。

○資料説明

次期県立高校改革推進プラン素案について

事務局説明

座　長　ただいまスライド資料を用いて事務局から説明があった。この後の意見交換の進め方について、まず、「Ⅰ　計画の基本的な考え方」について意見交換を行い、休憩を入れる。次に、「Ⅱ　魅力ある県立高校づくりの推進」の中の「普通科及び普通系専門学科・コース」、「職業系専門学科・コース」、「総合学科」、ここまでの内容について意見交換を行い、２度目の休憩を入れる。休憩後、引き続き「社会のニーズに対応した教育」と「Ⅲ　県立高校の適正規模・適正配置」について、意見交換を行い、最後に全体を通して何か御意見があればいただきたいが、いかがか。

（「異議なし」の声あり）

座　長　それでは、まずは前半、「Ⅰ　計画の基本的な考え方」について、委員の皆様から御意見を伺いたい

委　員　まず、本懇談会の位置づけについて確認したい。プラン策定に向けての課題等を整理し、幅広い視点から意見を聴取するということでスタートしていると思うが、今回、２つの報告が紹介された。地域協議会、アンケートを実施し、今後パブリックコメントも予定されているが、プラン策定のためのさらなる第４、第５の意見聴取が、ほかにもあるのかどうか、あるいは過去にもあったのかどうかということを伺いたい。また、アンケート調査結果を大変興味深く拝見した。この白丸、黒丸のつけ方について、主な結果として書いてある。ただ、本当に黒丸的な内容だけだったのか、白丸的だけだったのか、あるいは黒丸にされているが白丸ではないかと思われるものがあり、気になった。

また、前回の懇談会の時に座長からも、外国につながる生徒の記載について、事務局で検討していただきたいとの発言があった。今回、定時制のところにあったが、もう少し拡大するべきだと思う。

普通科について、前回、「裾野を広げる」及び「柔軟化を」という発言もあった。例えば、ＳＴＥＭもしくはＳＴＥＡＭ教育、これはあらゆる学科で必要だと思うが、特に普通科については必要という印象もある。

さらに、普通科の中に関係機関との連絡調整という記載があった。全ての項目に、ないところがないぐらい「連携」という言葉がちりばめられている以上、この文言は全部に関わるものとして、一つ上に格上げした形での記載が望ましいのではないか。

事務局　この策定懇談会がプラン策定についての意見を伺う場として、一番大きな会であると認識している。それ以外にも地域協議会という形で、各事務所単位で実施した。地域協議会については、今後、プログラム策定もあることから、引き続き、各地域で丁寧に開催しながら、地元の関係者の方々や私学関係者の方々、様々な方々にも参加していただく形で、次年度以降も引き続き開催していきたい。

また、昨年度、専門部会として、農・工・商・水、そして福祉、この五つの部会の方を、昨年度コロナ禍であったこともあり、集まってではなく、我々がそれぞれの方々のところに伺い、聞き取る形で開かせていただいた。そこでいただいた意見なども今回のプランの中に生かしている。

先ほどアンケートの件について、我々の方で主な意見を、まとめさせていただき、より分かりやすい形で示させていただいた。もちろんこれ以外の意見もあったが、集約していくと、このような形になる。また、参考として、全ての質問についてのグラフ、数値を記載してあるので、参考にしていただきたい。

最後に、意見について、第１回目、第２回目で委員の皆さまから様々な意見をいただいた。できるだけ生かせる形で落とし込んで今回の素案として示したところである。この素案の次に原案を提示することになるが、そこへ向けて、足りない部分、あるいは御意見があれば、本日出していただきたい。

座　長　アンケートの結果については、確かに本当の白丸なのか、黒なのか、グレーではないかと思われるところもある。白丸、黒丸は別として、書いてあるコメントについては納得できる。白黒をあまり強調しない、強く受け止めなくていいところもあ

ると思う。

委　員　アンケートや地域協議会について、なぜ私立高校を外しているのか。県の教育振興基本計画においても、公立・私立が協調して公教育の一翼を担っていくと書いてある。それでこの場に公立高校と公立中学校の代表者が１人ずついる。アンケートや協議会には、多くの公立の中学校、高校の関係者を呼んで意見を聞き、その結果をそこに白丸、黒丸にしている。これは非常に問題性がある。

この後、私立高校も千葉県の中学校を卒業した生徒に対して良い教育をしたいと願っている。その私立学校から公立学校に今後こういうふうにしてほしいというのは、私だけではなくて５４校、それぞれが強く持っている。その意見を聴取して、反映させるということは必ずやっていただきたい。

改革素案プランの（１）予測困難な時代の中で、生徒が主役となり、未来を切り拓く力を育む学校と、中教審の言葉のとおりに生徒が主語というふうにした方が良い。主役でいくのであれば、それでも良い。二つ目のところの超スマート社会（Society５．０）とあるが、この記載は、今はなじまないと思う。明らかに情報化社会の次にＡＩ、ロボットなど、スマートを超える社会になるという意味合いは、３年ぐらい前までは強かったが、それよりも何が起こるか分からない、予測困難な時代がついている。ここ一、二年は、超スマート社会イコール Society５．０というような表記は文科省もしていない。したがって、「超スマート社会あるいは」という表記にする、もしくは丸括弧をやめてもらいたい。

単位制高校について、県教委の認識はどう考えているのか。今日は明らかにしたいと思う。単位制化という言い方があるが、高校はもう完全に単位制化である。小・中学校は学年制で、評価が１であっても進級はできるが、高等学校、大学は点が取れなければ単位未修得という形で、３年間で７４単位を取った場合に卒業できる。高校の単位制化と言う以上、単位制化になっていない県立高校があるのか教えていただきたいが、ここでは単位制高校と言っている。

単位制高校は、学年を一つ一つ上がっていくのではなく、３年間に７４単位を履修すればよく、通信制高校が、一番できることだった。それを全日制高校も導入してよいことになった。

いくつかの県立単位制高校のカリキュラムを見た。ある高校では、我が校は単位制高校であるとは一言も書いていない。他校でも単位制高校であると言っている

が、そのカリキュラムを見れば、１年の芸術科目を三つの中から一つ選ぶとか、２年になった時に、地歴・公民の中でこれとこれを選択すればいいというレベルであり、基本は学年制である。

単位制高校とは、そうではなく自分で３年間のカリキュラムをつくり、その中で単位を取得するものである。幕張総合高校は、１年は学年指定になっているが、２、３年は１～２科目のみ学年指定で、あとは生徒に任せている。朝のショートホームルームもせず、それぞれが履修する教室に行って学ぶ、大学と同じである。

新しい学科やコース、系列をつくるという時に大規模単位高校を設置するとあるが、今のような形であれば、どの高校も単位制高校である。しかしながら、全ての学校で２年、３年は当たり前に科目選択を認めている。だから、学科・コース、系列、単位制高校、この区分けはどうなっているのかを明確にしてプランを出さないと、中学生にはわからない。

事務局　単位制高校について、我々としては、各学校において、生徒の多様な希望、選択科目のニーズに応えるために単位制を導入している。その運営方法については、各学校の生徒にとって一番良い形で運営してもらっている。ただ、単位制高校には様々なメリット、魅力がある中、学年を超えた学びや半期認定等ができていないという指摘がある。これらについては改善点として、これから単位制を導入する中で、さらに検討を進めながら改善を図っていきたい。

座　長　単位制の理解にややずれがあるかと思うが、事務局としては、皆さんが理解いただけるように、これからも説明を続けてほしい。

副座長　高校再編を進める上で一番大きいのは、もちろん学校長のリーダーシップは言うまでもないが、具体的にそれを管理職とともに進める教員の育成・養成が教育環境の整備の一つに入るのではないか。ここに何らかの形で、人的な養成、あるいは推進役の養成というものも必要不可欠ではないのか。

事務局　様々な改革を打ち出しているが、実際に行っていくのは現場の教員であり、また、それに応えていくのは子供たちであり、そこがしっかりしていかないと改革も進んでいかない。教員の質の向上、育成・養成については、また検討させていただきたい。

委　員　改革の方向性に教育環境の整備とあるが、学びの改革、個別最適な学びを実現するには、できれば大学に準じた教育環境、講演会の講堂や会議室、個別学習ブース、

外部講師などが理想かと思われるが、最低限、和式トイレの洋式化、ＩＣＴ環境、コーディネーターの配置、図書室の図書の充実などが不可欠ではないか。

この中で、特にＩＣＴを活用した教育について、最近では、国のＧＩＧＡスクール構想やコロナ禍におけるリモート授業など、ＩＣＴを活用した指導方法が重要になってきている。機器整備自体は手段であり、目的ではないが、ＩＣＴ活用による教育は、生徒にとって個別最適化された学びや創造性を育む学びにも寄与するとされているところであり、高校の卒業後、進学、あるいは就職をするにしても、今ＩＣＴの活用は日常的なものとなっている。せっかく義務教育段階において一人一台端末環境で学んだ児童・生徒が高校に進学して、そこで立ち止まることなく、切れ目なく同様の環境で学ぶことができるよう、高校でも必要な機器を整備し、効果的な教育を行うことが重要だと考えている。

地域協議会での意見や、本日提示された次期プランの素案の中でも、生徒が生き生きと学ぶことができるようにと記載がある。是非必要な機器の整備と、それに伴う教育体制の充実を特に優先的にお願いしたい。全国を見ても、人口数、生徒数が多い都道府県はなかなか難しいところがあるかもしれないが、できるだけ優先的に進めていただきたい。

座　長　高校教育の条件整備の部分についての発言であったが、どのようにこの計画策定の基本的な考え方の中に盛り込むことができるかについて検討いただく必要がある。事務局には次回までにいろいろ検討いただきたい。

委　員　今までも素案にある、戦略的な広報活動について話をしてきたが、改革の方向性（７）の小・中・高、特別支援学校との学校間連携の強化、そして３の計画実施上の重点事項の連携を軸とした戦略的な広報活動を展開と記載していただいてありがたい。

私は小学校籍だが、小学校では、例えば低学年、中学年では生活科、社会科で地域の職場、そして公共施設等を学び、高学年では工業・農業・水産業等の産業、そして総合でキャリア教育として、地域の方々と触れ、直接職場のことについて、小学校でも何となく感じ取ることができる場がある。

ただ、今見てみると、地元の高校生とそうした関わりが本当にあるかというと、意外と盲点なのかもしれない。地域によっては、連携している学校があるかもしれないが、もしかしたらそうした高校生が、将来こういうことを目指して、今頑張っ

ているといったことを話題にしながら、小学校の子たちと交流することにより、中学校に行ったらこういう高校を目指したいなど、具体的な部分が、年齢が近い高校生との話合いで進んでいくことも非常に効果があると思う。

高校生も、改革の方向性（３）働くことの意義を学び、社会で活躍する人材の育成について、逆に後輩たちに語る場がもしあれば、さらに相乗効果があるかもしれない。

そのためには、先生方同士の連携が必要になってくると思う。時間を設けることは難しいかもしれないが、小・中・高、一体となって進めていく必要があるのではないか。

（　休　　憩　）

座　長　再開する。

ここからは、「Ⅱ　魅力ある県立高校づくりの推進」についての意見交換とする。まずは普通科及び普通系専門学科・コース、職業系専門学科・コース、総合学科について意見をお願いしたい。

委　員　先ほど少し申し上げた外国につながる生徒のことについて、少し詳しく話をする。外国につながる生徒については、定時制のところにのみ記載がある。確かに、前回よりは進歩してはいるが、本当にその子たちが定時制に来たいと思っているのか。全日制、あるいはいろいろな科があるのだから、このような文言は、全ての科にまたがるようにしてはどうか。言うなれば、全ての高校の魅力化と学びの改革の辺りに格上げするべきだと思う。職員の配置についても、同様にする必要があると思う。

基本的コンセプトや改革の方向性の中で、幾つか気になる表現がある。例えば、コンセプトの（３）の丸の１つ目に「本県の高校生」と書いてある。これは本県の高校に通う高校生ということでは良いと思うが、その次に「郷土や国を愛する心」という表現もある。そうした時に、外国につながる生徒たちの「国」とは何か、これらの表現はあまりに従来的な感じがする。もしこの文言を入れるのであれば、例えば、「郷土や国を理解した上で」というふうにつなげていくと、いろいろなケースを含められると思う。

グローバル社会という表現も随所にある。グローバルスクールはもちろんそうだが、関連して、改革の方向性の（４）の「共生社会の実現や多様な学習ニーズに対

応した教育の推進」、特に１点目、共生社会の実現に向けた学びの推進についても、格上げするべきと思う。そして、問題なのは、ここに（特別支援学校等との連携）とあり、共生社会という概念をかなり矮小化している。そういうことにとらわれない共生社会ということを打ち出すためにも、格上げしてほしいと思う。

委　員　普通科及び普通科系専門学科・コースについて、現状の社会の様子、また、これからの時代の流れを反映した記載になっていると思っている。一つ質問だが、普通科の白丸の２つ目、「関係機関等との連絡調整を担う職員の配置検討」というのは、プラスアルファの一般行政職員を配置するということか。または、教員定数がプラスアルファになるということか。

事務局　普通科の丸の２つ目の記載について、今、国の方で、学校教育法施行規則の一部改正を受けて、普通教育を主とする学科について、学際領域に関する学科、地域社会に関する学科を弾力的に設けても良いということになった。その際に、大学や研究機関、地域社会の企業、行政機関と連携して学びを進めていかなければいけない。その中で、当然調整役は必要ということで、国の方も予算化に向けて動いている。積極的に活用しながら、今まで先生方にプラスアルファで頑張ってやってもらっていた部分もあるが、連絡調整を担う職員を入れていきたい。

委　員　連絡調整とは教員免許を持っていない一般行政の方ということか。または、免許を持っている教員ということか。

事務局　この方は必ずしも授業を行うことにはならないと思う。授業を行うことになれば、当然教員免許が必要であり、あるいはＴ２で教員免許を持っている方に入っていただくなど、いろいろ工夫しなければいけないが、単に外部団体とつないでいく役割においては、教員免許は要らない。様々な人材を考え得るのではないのか。

委　員　普通科及び普通科系専門学科・コースの理数科について、以前、なかなか中学校の段階で理数科に行くというのを後押しするのがちょっと難しい部分もあるというお話を少しさせていただいた。丸の３つ目の「総合学科理数系列、あるいは普通教育を主とする学科としての理数探究科等への改編」と書かれているが、中学校では、また似たような、理数科と同じような名前の学科が出てくると、違いがどうなのかが進路選択の段階で話が出てくる。その点、広報を強めていくということも含めて進めていただきたい。

委　員　私は教員ではないので、難しいことはよく分からないが、最終的には子供が中学

生になって、もしくは早い子は小学校の高学年から、高校やその先の自分のやりたい方向などを決めていく。最初の人生の分岐点と言っても過言ではない。こういった形はどんどん進めていただいて、これが実現できるかどうかがすごく大事なことではないかと思う。最終的には、中学生でも本当に分かるように、純粋に興味が湧く高校づくりをしていただきたい。

学校の先生は、いろいろな中身を見ながら、「あなたにはこのような学校がいいんじゃないの」と、進路指導をしていただいているが、子供や保護者にとっては、なかなか行き届かないのが現状だと思う。一生懸命ホームページで調べてもなかなか分からなかったりする。また、地域によっては近くの学校がそこしかないとか、あとは純粋に学力というところもある。いろいろな要因がある中で、やむを得ずそこの学校に行かざるを得ない状況の子供たちもたくさんいると思う。その中で、子供がその学校に本当に魅力があるか、好きになれるかということを、単純な形で子供に分かりやすく示していただきたい。

委　員　私は高校を出てから五十数年経つが、たまにＯＢ会の関係で自分が卒業した高校に行くと、外から見たのでは分からないほど、いろいろなことが変わっていると思う。

それから、普通高校が７割ぐらいで、それ以外の農・工・商・水・福祉等々が３割程度ということだが、特に普通科の枝分かれがすごいと思う。一つは中学が終わる１５歳で判断する時に、率直に考えて、どこに行ったらいいか分からないのをさらに、細分化していること自体、選択を難しくしているのではないか。

外房地区の理数科の場合は、実際には学力上位の人が理数科に行き、理数科を出る際には、理数系の学校に全然行かないということもあるのではないか。

さらに、英語系について、英語学科ができたが、既になくなった高校も近所にある。グローバル化、国際化という言葉がたくさん出てくるが、国際化やグローバル化が全然進まない中途半端な状態である。カリキュラムややり方を変えないと、ただ名前だけで、中身は何もないということになるのではないか。千葉県から国際化の人材を育てるというには、あまりに程遠い内容のように推察する。

具体的にと言うと、今の文部科学省のいろいろなカリキュラムの組み方ではちょっと難しい大学に行かないと駄目ではないか。ミシガン大学の研究によると、１５歳より前にそうしたことをやらないと無理とのことである。中学から始めて高校に

至るまでやっていかないと、高校を出てから国際化に向かおうとしても、頭の脳の構造がないので、相当無駄なエネルギーを使っているといった印象を持っている。

座　長　国際化に関わる教育について、その実効性、実力がついているのかに関わる御意見であった。改革を行うのは良いが、それに対して成果が上がったのかどうか、その中身がどうだったかについて、今後、検証がしっかりできるよう担保することを考えた方が良い。

委　員　職業系専門学科・コースの福祉科の関係が中心になるが、計画素案の特に福祉科の丸の２番目、「学校間連携を推進し、学科やコース等の枠を超え福祉の学びを拡大」と記載がある。恐らく改革の方向性の中では、小・中・高等学校間の連携を意識して書いたと思うが、現在、福祉拠点校、福祉コースについては、学区ごとに１校ずつ配置されている。

例えば普通科の高校生で福祉に興味・関心があり、学区内で福祉の学びの機会があれば、さらに地域の中で連携した形で展開できると思う。

一方で、資料２のアンケート調査の５ページで、福祉教育について、有資格の専門教員の確保が課題である、設置地域に偏りがあるといったコメントがなされている。特に介護系の場合、指導関係の資格が必要になる。そうした資格を持った教員を確保できないのであれば、地域には、高齢者施設や、障害者施設などの介護関係施設もある。保育分野であれば、保育園や児童福祉施設などがあるので、場合によってはこうした施設に協力を仰ぎ、技術を学ぶ機会として学校に来ていただき、高校生に教えていただくことができれば、さらに学びとしては充実すると思う。ほかも同様で、工業、農業、商業などでも地域で活躍されている方々もいるので、学校の方からお願いをして、連携を図りながら学びを深めることが大事だと思う。

委　員　特に工業科について、現在の案そのものに大きな異論はない。ただ、職業系専門学科を高校進学の段階で選ぶのは、中学生にとって、かなり大きな決断であり、心理的な負担もあると想定される。小・中学校からのキャリア教育をきちんとやる必要がある。

一方で、普通科には７割の生徒が行かれるということで、その先の進路も非常に幅広いと思う。逆に言うと、普通科には、中学校で進路を選び切れなかったから、普通科に行った生徒も多いと思う。その中で、大学に進学する生徒も、どの専門・専攻を選ぶかによって、その後の本人のキャリアに響いてくることになりかねない

ので、普通科に関しては、高校に入ってからもキャリア教育として、どんな仕事があるのかというところからかと思うが、我々企業との連携も含め、どのような方法があるのか、考えていく必要がある。それは必ずしも普通科から就職ということだけを考えているわけではなく、進学する生徒にとっても、進学先を考える中での助けになると思う。

委　員　私は大学の商学部だが、商学部に入ると、厚いテキストを買わされる。読んでも歯が立たないような内容の話をずっと教授がやり、「どうだ、分かるか」といったような講義であった。実社会に出てから、商業科の科目が全然分からずに困った。それで地元の一宮商業の入り口の横にある教科書を売っているところで、一通り全部買い、読んだが、分かりやすく書いてあった。高校の商業の内容はすごく親切で、生徒のために組まれているが、大学の場合は、ただ先生の自慢話のためだということで、私は、三、四十年前から商業高校の中身についてはすごくよくできているという印象を持っている。この内容を見ると、かなりそれを高度化させようと、いろいろなことを考えてやろうとしていると理解している。

委　員　総合学科の丸の２つ目に、普通科を総合学科に新たに５校程度設置するとある。これは明確に書いてあり、４校から６校設置するということが確定しているように思えるが、これは幕張総合高校のようなイメージで受け取る。そうすると、先程の単位制の問題とも絡んでくるが、どのような総合学科をイメージしているのか教えてほしい。

事務局　総合学科については、これまでの策定懇の中でも、進路について曖昧なまま普通科に行っている子が多いという話があった。逆に、中学３年生の段階で、専門学科を選べるところまでしっかりとした考えを持っているかというと、なかなか難しく、高校に入ってから選べるような学びが良いのではないかという意見がかなり多かったと受け止めている。

まさに総合学科は、総合学科として入学し、１年生の時はみんな同じような学びをする中で、「産業社会と人間」という科目の中でしっかりとキャリアについて考え、それを踏まえて２年生から系列という形でそれぞれの未来に向けた学びを集中的に学んでいく。そして進路へつなげていくという学びなので、高校に入ってからキャリア教育を踏まえて選択していく形として、非常にふさわしい学科であるというイメージで、５校程度普通科から改編していければということで打ち出させてい

ただいた。

委　員　基本的には、普通教育を主とする学科というよりは、職業教育、専門教育の方に行く総合学科というイメージか。

事務局　総合学科にも多様な形があると思う。生徒も全員が全員、卒業後すぐ就職ではなく、キャリア教育する中で、大学に行ってしっかりと学ぶという選択も出てくると思う。そういった選択にも耐え得るものも含めながら設置していきたいと考えている。

座　長　全国の総合学科の系列を見ても学校によって様々である。さらに一つの学校でも時代によって系列を組み替えていくということをやっている。総合学科に入った生徒が充実した学びができるような形で系列を考えることが、肝要かと思う。

水産関係について、今日欠席されている委員の意見を事務局から代読していただく。

事務局　本日御欠席の委員の方から御意見いただいているので、代読させていただく。

委　員　中学校の教員に専門学科のことを知らせる必要性を感じている。また、高校選択の段階で専門的な進路を選択することは難しいので、普通科の学校に入学しても、その後専門的な学科を学べる機会を設けることができないか。また、スペシャリストを育成する、広く学ばせる、この二つについては悩みどころである。スペシャリストの道を選んだとしても、その後の人生は長いので変更できるような、そのような柔軟なカリキュラム、学校の仕組みが必要ではないか。

委　員　１点目、日本も千葉県も海に囲まれているので、船に関する産業についてはなくなることがない。漁業については、仕事として成り立っているということを踏まえてほしい。

２点目、海洋科について、本気で水産について学びたいと思って入学する生徒がどれぐらいいるのか。次期プランでは、水産教育について本気で学びたい、そう思えるような内容であってほしい。

３点目、安房、銚子、勝浦では、地域の状況も漁業の特色も異なっている。アンケート結果にあったように、例えば複数の水産系の学科を持つ学校を一つにまとめるというアイデアであったり、あるいは集まりやすい千葉市に水産高校を集約するというアイデアもアンケートの中にあったが、実際には難しいのではないか。

４点目、実習船の必要性について、船を軸にすることで様々な学びが可能になる。

海技士の育成についても、実習船の必要性がある。

最後、海洋科の生徒が水産教育だけを学ぶのではなく、商業、家政など学科を超えた連携が今後求められてくる。第６次産業のように生産から加工・販売まで一元的に実施する産業のニーズに合ったカリキュラムを是非開発してほしい。

座　長　休憩に入りたいと思う。

（　休　　憩　）

座　長　再開する。「社会のニーズに対応した教育」、それから「県立高校の適正規模・適正配置」について御意見をお願いしたい。

委　員　５ページ目の単位制高校について、白丸の３つ目に「大規模単位制高校の設置について検討」という記載がある。この記載は、これまでの中で一番大きな目玉だと思う。県立高校は今、建っている校舎に１学年１０クラス入れるのがマックスである。現存でその規模の校舎しかない条件の中で単位制高校を考えるとなると、授業展開のために多くの教室が必要になってくる。ここに書かれている大規模単位制高校ということであれば、新たに校舎を建てなければ厳しいことがこの文章からうかがえる。大規模な新校舎を建てる覚悟でこれを記載しているのか。その予算を取ってきて、千葉県がそういう高校をつくる覚悟であれば、大変ありがたいと県立高校の代表者として思っている。その覚悟の部分を教えていただきたい。

事務局　適正規模については、今回、上限を８学級という形で打ち出しているが、この大規模単位制については、８学級を超える学級数、例えば１２とか、それぐらいの規模をイメージしている。そうなると、当然多様な学びを、選択科目を実現するためには、それだけの職員の配置や教室の数等が必要になってくる。

現在、高校も大分校舎が古くなっている、これから長寿命化も含めて動いていく中で、うまくコラボしながら、そのようなところに対応できる学校をつくっていければという思いはある。

委　員　是非応援したいと思う。

座　長　このような大きな規模の単位制の学校は全国に幾つかあるので、是非うまく成功した例を参考にしながら進めていくのが良いと思う。しかも、プランの目玉の一つでもあるので、いろいろな御意見を参考にしながら、新しく構想をいただければと考えている。

副座長　大規模単位制高校について、敷地、校舎の件は、中途半端にやると、かえって生

徒の選択ができなくなってしまう。大体、学級数、募集学級よりも１．５倍ぐらいの教室数がないと、多分実施できないと思う。是非そのくらいの覚悟でお願いするとともに、多くの系列、あるいはコースをつくる形になった時に、少人数での科目展開が実施されるとなれば、当然、教員数は専門的な分野及び人数が必要になってくるので、是非併せてお願いしたい。

もう１点、別の観点からだが、社会のニーズに対応した教育の四つ目にある地域連携アクティブスクールについて、非常に効果があるとこれまでの検証結果でも言われている。そこで新たに４校程度とあるが、学区が９だとすれば、適正配置との整合性を考えた場合に、少なくとも学区に１校という考え方が、まず大原則ではないのかと思う。学校数についてはもう少し増やしても良いのではないか。学び直しとともに基礎・基本の徹底という形で配慮願えればありがたいと思う。

委　員　この大規模単位制高校は、大規模というのは学級数を８ではなく、１２にするんだと、そういうお考えは、やめた方がいいと思う。今、副座長が言われたように、学級数は減らしても、それぞれが選択をして自分の学びたい科目を履修するとなると、大規模というのは少しふさわしくないと思う。本当に単位制高校をつくるのであれば、学年制ではないのが単位制高校なのだから、それを踏まえた上で、大学と同じように必修科目、選択必修、それから選択というように、まさに大学の学部と同じようなことを高校でやるという認識を持たないと、大規模というところで喜ばせてはいけないのではないかと思う。

事務局　御意見として承る。いずれにしても我々は子供たちのために魅力ある学校づくりをやっていく中で、一つの形として、多くの生徒が集まって様々な学びを展開できる学校があってもいいのではないかということで企画させていただいている次第である。

委　員　定時制高校について、私も定時制高校に職員として在籍したことがある。白丸の２つ目になるが、「専門スタッフによる支援体制を充実」という記載がある。これも非常に良い取組になると考えている。ここで言う専門スタッフとは、どのようなスタッフを想定しているのか。

事務局　まず、専門スタッフについてだが、教員の教科教育の中だけでは対応できない、例えば外国語を母語とする生徒への対応や、あるいは心の悩みを抱える生徒への教育相談の充実など、教員の教科指導以外の部分で先生方の手助けとなるような専門

的な人材を入れていければ、生徒にとっても良いことだし、先生方の働き方改革にも寄与できるのではないかと思っている。

委　員　定時制には様々なスタイルがあるが、ここでは白丸３つ目、昼間定時制という言葉もある。前回お話ししたように、私の地域では夜間しかないが、夜間しか来られない生徒、あるいは社会人の方もいる。そのことは意識しておいていただきたい。同時に、専門スタッフについて、これは先ほどの連携の職員と同じように、定時制だけではないから、できるだけいろいろな場面で専門スタッフによる支援体制をつくっていただけると良いと思う。

副座長　中高一貫、定通に関して。中高一貫については、現在２校、連携型を含めて３校あるが、中には、地域によっては、今後、地域協議会の中でもしかしたら要望が出てくるかと思うので、多様なニーズに是非即してもらいたい。一方で、県立中学校をつくるとなると、市町村立の中学校との関連性も出てくるので、この辺は丁寧に行わなければいけないと思う。十分に地域のニーズを把握していただきたいと思う。

定時制については、まさしく多様な生徒が学んでいるし、三部制にこだわらないというスタイルもあると思う。夜間をなくしてしまったら、通うところがないという地域もある。今後、適正配置との関係もあるが、生徒数がないから即廃止というようなことはなく、十分に見ていただきたい。

通信制だが、実は今、通定併修という形で通信制の生徒が協力校に行って学んでいるというのが非常に効果もあると聞いている。実は全日制の教員でもできるのではないか。もう少し幅広い学びが、そこで通信制の生徒にとってもできるのではないか。もう少し定通、通定に限らず、全日制も幅広に考えることを研究されても良いのではないかと思う。通信制の課題、それからＩＣＴのことを考えた時、より検討、研究を進めるべきではないかと思う。

事務局　通信制の協力校について、今、館山総合で試行的に実施しており、実際に館山総合だけで授業を受けてスクーリングして、テストを受けて卒業していく生徒も出ている。そういった中で、今、定時制の先生方にいろいろお手伝いいただいているが、是非、全日制の先生方にもお手伝いいただきたいという声も上がってきている。その辺も踏まえながら、子供たちにとってより良い形で、県内１校しかない通信制なので、県内全域の子供たちが通える可能性を検討していきたいと思っている。

座　長　中高一貫教育については、私もこれまでかなり研究して、また、いろいろ全国各地の学校を見させていただいた。やはり併設校については、地元の中学校との関係が結構重要である。もし今後検討するのであれば慎重に、地元との調整が必要になってくる。また、連携型についてもどの程度成果が上がっているのか、連携型入試というのが併せてついてくるので、その関係でも議論する必要があると考えている。その意味では、かなり慎重な書き方になっているということは、これはよろしいのかなと思っている。

委　員　地域協議会のことを一つ、資料４の詳しい資料の２３ページに、詳細が書いてある。一番下に「地域関係者を集めた地域協議会を」とあるが、是非とも教育関係以外のいろいろな方も含めて、協議会ができるようになればと思うので、御検討いただきたい。

資料３に戻り、６ページの最後、適正規模・適正配置の白丸の３つ目に郡部のことが書いてある。私は市町村全般の立場なので、この記述の後段に、「学校・地域の状況等に配慮し、統合しない場合もあります」という表現を書き込んでいただいて、これは非常に重要なことと思っている。

資料２のアンケート調査の２ページの表にグラフがあるが、２番目のグラフでは、小規模校を一定の条件を付して当面の存続を認める制度の必要性について肯定的な意見が、全体の９３％を占めている。郡部等では、これ以上地元校が減少すると通える希望校がなくなり、子育て世帯が都会に引っ越すなど、さらに過疎化が進むことも懸念されるところである。県内どこに住んでいても、容易に通える範囲に様々な種類の高校、学科があるという状況を、極力現状を維持する方向で適正配置を検討していただきたいと思う。

また、郡部等では、統合を決定する前に地元自治体と十分話合いをする。生徒数がどうなったら統合を検討するかといった統合の検討手順の明示もお願いしたい。さらに、１市町で一つの学校しかない場合は、他県のように特例校として存続させるといった配慮も検討いただきたい。地元自治体が高校に対して様々な支援等を行うようなことがある場合は、特に配慮いただければと思っている。

委　員　私も今の意見に賛成である。ここで少し、１０年後を考えてみたい。１０年後どうなっているかというと、私も含めて、ここにおられる教職員、教育関係者はほとんどが現場を去っている。そういう時代の千葉県の教育環境がどうなっているかと

いうことを想像してみたい。

昨年度、小学校に入学して、今年２年生の子はどうなっているか。今年から３５人学級になった。その子たちは、２０２６年には中学校に入る。その時、中学校が４０人学級であるということは、多分ないと思う。もちろん予測困難な時代であるので、どういうふうになっていくか分からないが、この間の、昨年度の様々な国会答弁を聞いていても、方向性は大分見えてきている。

その子たちは、さらに３年経って２０２９年には高校に入ってくる。その時も高校は４０人なのか。この計画が終わる時、その子たちは卒業していくが、６，２００人という話を随分強調されているが、４０人学級だったらば、今よりも百数十学級減という感じになる。ただし、もし小学校２年から３５人学級を経験している子の環境を維持するとして、３５人学級にした場合には、学級数は１，３３７というような数字であり、逆に増やさなくてはならない。そういう意味において、今回の案の中には、「他県の状況」もという話、勘案しながらという部分が幾つかあった。前回、関東近県の学級の状況について少し詳しくお話しした。１０年後のこの県の学級数がどうなっているかということについて全く言及しないのは、あまり適当ではないと思う。新しい知事の公約の一つでもあるし、少人数学級ということについて、これを含んだ上での適正規模・適正配置という言葉であってほしい。これなくして１０年後はどうなっているかということを想像するのは、あまり意味がないと思ったりもする。是非１０年後、私はどうしているか分からないが、本当にこの県の学校がどうなっているかを想像してほしいなと思う。是非とも、そのエッセンスでも何でもいいから込めてほしいと思う。

委　員　丸の３番目のところで、「学校・地域の状況等に配慮し、統合しない場合もあります」、ここだけですます調で書いている。これはそぐわないし、統合するのではなくて、学校・地域の状況等に配慮し、さらに規模を縮小することもあるとか、別に統合したり、廃校にする必要性はないわけだから、「規模を縮小することもある」と改める方が良いと思う。

座　長　細かな表現の部分だが、恐らくここに限らず、全体を見ていくと、幾つかさらに修正を加えた方が良いところも見られるので、次回はその点も含めて議論できればと思う。

最後に、全体を通して何か御意見があればお願いしたい。

委　員　改革の方向性の（６）「生徒が生き生きと学ぶことができる教育環境の整備」について、この教育環境とは、例えばＩＣＴや人材、機器、ソフトなどという理解でよろしいか。

事務局　今、中黒のところではそのような形で表現させていただいているが、引き続き検討しているところである。

委　員　教育環境の整備について、生き生きと学ぶためには、まず、安心して生活できる場である必要があると感じている。例えば、長寿命化や、あるいはほかの委員の方からトイレのことが出てきたが、設備を整えることによって魅力ある県立高校につながっていくという思いもあったので、質問させていただいた。

座　長　私も学校建築の研究しており、考えたら、今の家庭の物的環境よりも学校の方があまりよくない状況があり、それは学校施設全般に改善していかなければいけないところだが、どういうふうに盛り込むかは事務局の方で検討いただきたい。

委　員　同じく改革の方向性の（４）の共生社会の実現のところの１番目の丸ポチのところで、共生社会の実現に向けた学びの推進のところの括弧に（特別支援学校等との連携）という言葉が入っている。前回の懇談会の時に、必ずしも教育だけ、もしくは福祉だけということに限らず、産業とか医療とか、いろいろな分野と連携しながら共に生きていくというようなお話を差し上げたかと思うが、あえてここに特別支援学校等という形で限定されているというのは、少し合わないのではないかなと思う。単純にこの括弧書きを取ってしまえば良いと思う。

もう一つの視点として、特別支援学校は、障害を持った方々が通われている。障害者に対するネガティブイメージをつけてはしないかということが危惧される。この点は是非とも御検討いただきたい。あと（７）の丸ポチの２つ目、小・中学校、高校、特別支援学校とあるが、大学・短大・専門学校など、高等教育機関との連携も必要ではないかと感じたので、一つ御検討いただきたい。

副座長　計画全体について今後取りまとめられ、次回、案が出ると思うが、最後の部分に、例えば附帯事項ではないが、この計画推進に当たっての配慮事項として、先ほどの学校施設や必要な教員の確保、教員の養成・育成など、さらには究極のところ、財源の確保、それは県の予算だけではなく、もっと広く社会から集めるとか、いろいろな方法があるかと思う。その財源の問題を是非、推進に当たっての留意事項、配慮事項のような形で盛り込めたら、この計画がより実効性が高くなると思うので、

御検討いただきたい。

座　長　御協力いただき、感謝する。事務局については、各委員から出された意見等を踏まえた上でプランの作成を進めていただきたい。それでは、進行を事務局にお返しする。

教育長　お忙しいところお集まりいただき、また、貴重な御意見を多数いただき、重ねてお礼申し上げる。

まず一つ、用語の使い方や言葉遣い、表現等について適切でない部分もあったかなというのを、今日の御意見を伺い感じたので、いただいた御意見を踏まえ、全体として、もう一度表現等について検討し直したいと思う。

それから委員からいただいた御意見の中で、私立高校の先生方等の御意見をアンケートで聞いていないという、これは非常に大変申し訳なかったと感じている。私学の代表ということで毎回御出席をいただき、本当に感謝しているが、それと併せて、同じようなアンケートという形式について、私学の連合会の方の御協力がいただければ、是非検討したいと思うので、また別途、改めて御相談させていただきたい。大変失礼した。

それから、予算の関係、施設の関係、教員の確保については、御指摘ごもっともである。まず、今回のプランというのは、今後、県立高校の配置、再編、そしてそれぞれの学校の目指す方向性、学科の在り方等について、マクロの視点で県の考え方を示すというところがまず大きな目的であるので、それを実現するために、予算、人をどうしていくのかということについては、この中にはそこまで具体の裏づけがない部分も確かにある。そこについては、今、副座長からも一つ御提案をいただいたが、どこまでここに落としていけるか、あるいはこの中には落とし込めないけれども、どのように裏づけを皆様に御説明できるようにするかについて、また、持ち帰らせていただきたい。

―― 了 ――